



瑞二だより

教育目標

自立・貢献・生き抜く力



祝 開校60周年

発行者 江戸川区立瑞江第二中学校

校長 横枕 耕史

発行所 東京都江戸川区瑞江4-54-1

発行日 令和8年(2026年)10月2日

第563号



ありのままの自分で、未来へ

校長 横枕 耕史

先日の長崎修学旅行での一コマです。記念写真を撮る際、カメラマンから「よろしければマスクを外していただけますか」と声がかかりました。今ではごく自然なやり取りです。しかし私は、その光景を見ながら、今の子どもたちが生きる時代について考えさせられました。

SNSが当たり前となった今、子どもたちは多くの人とつながり、たくさんの情報に触れています。一方で、「どう見られているだろう」「みんなと違ってないだろうか」と、周囲の目を気にする機会も増えています。

最近では、見た目によって人を評価する「ルッキズム」という言葉もよく聞かれるようになりました。画像加工アプリや着せ替えアプリによって理想の姿を自由に作れる時代です。便利な反面、自分自身や他人を見た目だけで判断したり、加工された姿と現実を比べて自信を失ったりすることもあります。

しかし、**人の価値は見た目だけで決まるものではありません。**困っている人に手を差し伸べる優しさ。失敗しても挑戦し続ける粘り強さ。仲間の頑張りを認め、応援する姿勢。自分と異なる考えにも耳を傾ける心。そうした目には見えない力こそが、**その人らしさ**であり、本当の魅力だと思います。

ただ、私たちは知らず知らずのうちに、「**こうあるべき**」「**みんなと同じでなければならない**」という**固定観念**に縛られることがあります。大人も子どもも例外ではありません。そして、その固定観念は簡単には変わりません。

だからこそ必要なのは、相手を決めつけることなく、相手を知ろうとすることです。「なぜそう考えるのだろうか」「どんな思いがあるのだろうか」そんなふうに対話を重ねることで、自分とは違う**価値観**を理解し、多様な考え方を認め合うことができます。

私は、「**どうすれば、みんながずっとニコニコ笑顔でいられるのだろうか**」と考えます。その答えの一つとして、一人一人が無理に同じになるのではなく、「**ありのままの自分でいてよい**」と安心できる環境をつくることではないでしょうか。

本校では、研究主題を「**プレゼンテーションを通じた表現力の育成**」とし、一人一人が自分の考えや思いを発信する活動に取り組んでいます。人前で話すことは誰でも緊張します。しかし、**自分の考えを言葉にし、相手に伝える経験は、自信につながります。**また、発表を聞く側にも、相手の考えを受け止め、違いを認める姿勢が育ちます。自分の言葉で話すこと。相手の言葉に耳を傾けること。その積み重ねが、自分らしさを大切にしながら他者とつながる力を育てていきます。

本校の教育目標は「**自立・貢献・生き抜く力**」です。自分を信じて行動する「**自立**」。周囲のために力を発揮する「**貢献**」。困難があっても前向きに歩み続ける「**生き抜く力**」。これらの土台となるのは、「**自分は自分でいい**」と思える自己肯定感をもつことではないでしょうか。

これからの社会は、正解が一つではないVUCAの時代です。だからこそ、**誰かと同じになることよりも、自分で考え、自分の言葉で伝え、自分の道を選ぶ**ことが大切になります。

保護者の皆様、地域の皆様には、子どもたちの結果だけでなく、挑戦する姿や昨日からの成長を認めていただければ幸いです。

学校・家庭・地域が手を携え、「**みんな違っていい**」「**失敗してもいい**」「**何度でもやり直せる**」という温かな土壌を育てていきたいと思います。

完璧でなくていい。誰かになる必要もない。

ありのままの自分を信じて、一歩前へ。

そして、自分も周りの人も大切にしながら、**みんなが笑顔で生きられる未来**を一緒につくっていきましょう。